

A 係助詞と結びを見つける

練習 | 全8問 | 目安20分

係助詞と、対応する述語の活用形を一組で確認する。

字数は句読点・かぎカッコ・小さい仮名も各一字と数えます。解答に書く①・②なども各一字です。本文に印刷された段落番号や、解答欄の外の番号は数えません。

本文・例文は、すべて本教材独自の教材用作例です。

注 以下はすべて教材用作例です。語形は資料表を使って確かめてかまいません。

注 結びは、問題で示した文の文末にあります。

語	終止形	連体形	已然形
あり	あり	ある	あれ
高し	高し	高き	高けれ
寒し	寒し	寒き	寒けれ
咲く	咲く	咲く	咲け
降る	降る	降る	降れ
けり	けり	ける	けれ

問1 「庭にぞ花ある。」の係助詞と、結び「ある」の活用形を書きなさい。

問2 「風こそ寒けれ。」の結びの語と、その活用形を書きなさい。

問3 「この山なむ高き。」の係助詞と、結びの語を書きなさい。

A 係助詞と結びを見つける

練習 | 全8問 | 目安20分

資料表は問題Aの最初のページを見ましょう。

問4 人がいるか尋ねる「人やある。」で、結び「ある」の活用形として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 終止形

イ 已然形

ウ 連体形

エ 命令形

問5 「いづれの山か高き。」で、係り結びを生じさせる係助詞を一語で書きなさい。

問6 係助詞と結びの活用形の組み合わせとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア ぞ・なむ・や・かは連体形、こそは已然形。 イ ぞ・なむ・や・かは已然形、こそは連体形。

ウ 五つとも終止形。

エ ぞ・こそは連体形、なむ・や・かは已然形。

問7 「庭にぞ花（　　）。」の空欄に入る形として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア あり

イ あれ

ウ あら

エ ある

問8 「花ぞ咲く。」の説明として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「咲く」は終止形なので、係り結びはない。

イ 「咲く」は連体形で、終止形と同じ形になっている。

ウ 「ぞ」があると必ず語尾の文字が変わる。

エ 「ぞ」は疑問を表す。

B 係助詞に合わせて整える

練習 | 全8問 | 目安25分

形を選び直し、形と意味の両方を確認する。

本文・例文は、すべて本教材独自の教材用作例です。

注 以下はすべて教材用作例です。資料表を使ってかまいません。

注 「けり」はここでは過去のことを述べる語で、「～た」と読めます。

資料表は問題Aの最初のページにあります。

問1 「この山は高し。」を「この山ぞ（ ）。」に変えます。空欄を埋めなさい。

問2 「今日は寒し。」を「今日こそ（ ）。」に変えます。空欄を埋めなさい。

問3 「庭に梅あり。」を「庭に梅なむ（ ）。」に変えます。空欄を埋めなさい。

問4 「昔、ここに人住みけり。」を「昔、ここにこそ人住み（ ）。」に変えます。空欄には「けり」の形を変えて入れなさい。

C 会話の中で確かめる

練習 | 全8問 | 目安25分

強調と疑問を読み、文末まで係り受けを追う。

本文 教材用作例

- ① 里に寺あり。旅人、「この里に寺やある」と問ふ。里人、「丘の上になむある」と答ふ。
- ② 旅人、寺へ行く。庭に梅ぞ咲く。夜の風こそ寒けれ。

注 里＝村。里人＝村人。問ふ＝尋ねる。答ふ＝答える。

注 以下の問いでは、「や」は本当に尋ねる疑問として読みます。

資料表は問題Aの最初のページにあります。

問1 ①の旅人の会話から、係助詞とその結びの語を抜き出さない。

問2 ①の旅人の「や」と里人の「なむ」の働きとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア やは強調、なむは疑問。
- イ どちらも疑問。
- ウ どちらも命令。
- エ やは疑問、なむは強調。

問3 ①の里人の会話の結び「ある」は、何形ですか。

C 会話の中で確かめる

練習 | 全8問 | 目安25分

本文・注は、このセットの最初のページを見ましょう。

問4 ②の「庭に梅ぞ咲く。」の結びの語と、その活用形を書きなさい。

問5 ②で、已然形になっている結びの語を抜き出しなさい。

問6 ①の「この里に寺やある」を、疑問であることが伝わる現代語に直しなさい。

問7 ①の「丘の上になむある」の「なむ」を「こそ」に替えます。文末も直して、会話の文全体を書きなさい。

問8 「連体形の後には必ず名詞が来るので、『丘の上になむある』は文として誤りだ」という説明を訂正しなさい。（35字以上60字以内）

																			18
																			36
																			54
																			60

D 係り結びの確認テスト

確認テスト | 全8問 | 目安30分 | 100点

文末の見た目に頼らず、係助詞との対応で判断する。

本文 教材用作例

① 昔、この里に人住みけり。

② 今も、川のほとりにぞ家ある。

③ 子、母に「いづれの山か高き」と問ふ。

④ 母、「東の山こそ高けれ」と答ふ。

⑤ 春には、庭に花なむ咲く。

注 里＝村。ほとり＝そば。いづれ＝どれ。問ふ＝尋ねる。答ふ＝答える。
注 資料表は必要に応じて使ってかまいません。表を使っても減点しません。
資料表は問題Aの最初のページにあります。

問1〔10点〕 ①の文末「けり」の活用形として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 連体形

イ 命令形

ウ 已然形

エ 終止形

問2〔15点〕 ②の係助詞、結びの語、その活用形を書きなさい。

D 係り結びの確認テスト

確認テスト | 全8問 | 目安30分 | 100点

本文・注は、このセットの最初のページを見ましょう。

問3〔10点〕 ③で係り結びを生じさせる係助詞として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア いづれ

イ か

ウ と

エ に

問4〔15点〕 ④の母の会話から、結びの語を抜き出し、その活用形を書きなさい。

問5〔10点〕 ⑤の文末「咲く」の説明として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「なむ」の結びなので連体形で、終止形と同じ形である。

イ 終止形なので、係り結びはない。

ウ 命令形なので、花に咲くよう命令している。

エ 「なむ」の結びなので已然形である。

名前 _____

D 係り結びの確認テスト

確認テスト | 全8問 | 目安30分 | 100点

本文・注は、このセットの最初のページを見ましょう。

問6〔10点〕 ①を「昔、この里にこそ人住み（ ）。」に変えます。空欄に「けり」の形を変えて入れなさい。

問7〔10点〕 教材用作例「雪こそ降る。」の文末を正しく直し、その理由も書きなさい。

問8〔20点〕 「係り結びがあるかどうかは、文末の文字が終止形と違うかだけで分かる」という説明の問題点を、②と⑤を比べて説明しなさい。（45字以上70字以内）

																		18
																		36
																		54
																		70

得点 _____ /100点 解き直した日 _____ 月 _____ 日